



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	エヌ・カー・クループスカヤと現代ソビエトの学校における労働教育
Author(s)	エヌ・エム, カトーンツェヴァ
Citation	北海道大學教育學部紀要, 36, 49-56
Issue Date	1980-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29218
Type	departmental bulletin paper
File Information	36_P49-56.pdf



エヌ・カー・クループスカヤと現代ソビエト の学校における労働教育

エヌ・エム・カトゥーンツェヴァ

Н. К. Крупская и Трудовое Воспитание
в Современной Советской Школе

Н. М. Катунцева

まず、わたくしは、今年、1979年に、すなわち、秀れたソビエト国家の活動家であり教育学者であるナジェジダ・コンスタンチーノヴナ・クループスカヤ生誕110周年であり、かつ、クループスカヤがこよなく愛した世界の子どものための国際児童年にあたって、日本に招聘下さいましたことに対し、日本学術振興会ならびに北海道大学教育学部の皆様に心から感謝いたします。

何んといひましてもわたくしは歴史家であって教育学者ではありませんから、クループスカヤと労働教育にかんする問題を全面的に解明しようとは思いません。私は、ただ、現代ソビエトの学校の発展にとって重要な意義をもっている問題の部分的な点について素描してみたいと思います。

その名と活動が、偉大なレーニンの人格とつねに結びつけられていたクループスカヤは、革新的マルクス主義者として教育史上に登場しました。クループスカヤは、ソビエト教育学の土台をきづき、かつ、ソビエト統一労働総合技術学校の創始者の一人となり、理論と実践の相互関係にもとづいた国民教育制度をつくりあげました。彼女が関係せず、また影響を与えなかったような、何らかの意味ある国民教育の問題は一つもありません。クループスカヤが執筆した論稿の一部である、訓育と陶冶の焦眉の問題にかんする11巻本の教育学著作集は、教師、父母、及び世の人々にとって座右の書となっています。教育学のプロセスの統一性と連続性の思考が貫徹している彼女の諸労作の中で、もっとも重要な位置をしめているのが労働教育と総合技術教育の問題です。

ヴラジーミル・イリイチ・レーニンによって高く評価された彼女の主要な労作『国民教育と民主主義』（1915年）の中で、すでに、その当時の進歩的な教育学の経験が、はじめて、マルクス主義の立場から一般化され、それによってクループスカヤは、未来の調和的に発達する人間の形成における、労働と総合技術化の意義と役割を高めました。

彼女は、大十月社会主義革命後もこの思想を発展させつつ、ソビエト学校の目的と任務にかんする古典的定式を与えました。論文、「社会主義的学校の問題について」（1918年）の中で、クループスカヤは次のように書いています。「住民は、初等、中等、及び大学が一つの共通した目的をもつようにとのぞんでいます。すなわち、全面的に発達した人間の教育ということであり、それは自覚的で組織的な社会的本能をそなえており、そして、全一的に考えぬかれた世界観をもち、自然の中で、また、社会生活の中で自分の周囲において生起するすべてのこと

を明瞭に理解している人間、あらゆる種類の労働に、肉体的労働にも、精神的労働にも、理論においても実践においても準備されていて、合理的で衣食住の満ちた、美しく、楽しい社会生活を打ち立てることができる人間を指しています。社会主義社会にはこのような人が必要でありますし、こういう人々がいなければ社会主義は完全には実現され得ません。」(『クループスカヤ教育学著作集』[11巻本]、第2巻、モスクワ、1957年、11ページ。)彼女は、これらの目的を遠い将来の理想として定義したのではなく、日々の実践的課題として定義したのです。

クループスカヤの教育思想は、彼女の時代を遠く越えて、今日、ソ連邦において学校の一層の完成という複雑な課題を解決し青年の全般的中等義務教育と思想的政治的教育、労働教育および道德教育の組織的統一が実現されている時期にも、すぐれて今日的意義を有しています。

クループスカヤの諸労作の中で、学校の教授内容——すなわち、個々の教科の学習にさいしての実証的資料のマルクス主義的解明——を規定する多数の原則的命題やそれらの弁証法的相互関係、および実生活との結合が提起されています。教材の構成、その体系化と生徒ととりむすぶ活動方法は、この学習内容に従属させなければなりません。(前掲、第3巻、559ページ参照。)

クループスカヤは、教授と訓育の統一を考えながら、各教科の訓育的課題にとっても大きな注意を払っていました。彼女は、自然の進化の一般的法則性の理解とともに、人類社会の法則的發展、社会経済構成体の交替、社会革命の不可避性についてのはっきりした知識を生徒たちに与えることが重要であると強調しました。社会的諸関係および社会発展の本質の理解は、若者たちに進歩的勢力の勝利が必然的であるという確信をきづきあげることを促すものでなければなりません。クループスカヤは、「学校は子どもたちに唯物論的世界観の基礎を定着させるようにしなければなりませんし、また、学校は子どもたちに、周囲の諸現象の理解を与えるようにしなければなりません。」(前掲、第2巻、572ページ。)と述べています。クループスカヤの遺訓である、レーニンの遺産を学習すること、レーニンのように学び、生活し、働くこと、は成長中の世代への永遠の呼びかけであります。彼女は、若者たちに「学校でレーニンについて学ばなければならないだろうか？」という問題を提起し、それに対し、自分自身で次のように答えています。「そうです。学ばなければなりません。レーニンは、私たちの『昨日』、『今日』、『明日』と……密接に、切りはなしがたく結びついていますし、明るい未来をめざす私たちのあらゆる闘争と、闘う大衆と結びつけられており、わたしたちすべての生活から切り離されないものであります。もし、子どもたちが学校で、レーニンが何のために生き、レーニンが何をしたかを学ばないとしたら、それはおかしいことですし、許し難いことでありましょう。」(エヌ・カー・クループスカヤ、『教育学著作集』[6巻本]、第2巻、モスクワ、教育学出版所、1978年、379ページ。)

このクループスカヤの遺訓は、これまでに実現されてきました。子どもたちは、学校で、子どもたちに適したレーニンの著作を学ぶだけでなく、学校の中にレーニン博物館やレーニンの部屋をつくったりしています。それらは系統的に展示品が補充されていますし、また、レーニンのゆかりの地に出かけることやソビエト国民の労働と闘争の栄光の地へ出かけることを組織しています。

クループスカヤは、労働を、レーニンの精神で教育するさいの重要な要素とみなしていました。彼女は、成長中の世代の労働を組織することを、人格形成の欠くべからざる基礎とみなしておりました。「子どもたちの共産主義的教育のカナメは、子どもたちの労働を組織するこ

とにあります。」(〔11 巻本〕, 第4巻, 237 ページ。)労働教育にかんするクループスカヤの思想の土台となっているのは、人類社会形成の主要な条件としての労働にかんするマルクス、エンゲルス、レーニンの見解であります。

彼女は、労働の教育学的視点の探求と検討に多くの注意をそそぎ、労働の教育的役割を一般的に論じてはならないということを強調していました。あらゆる労働が成長中の世代に教育的影響を及ぼすものではありません。児童の労働を組織するさいに、次のような諸条件を正しく守ることが必要です。すなわち、生徒にとって興味をひく労働でなければならないこと、労働は肉体労働であるだけでなく、生徒の知識にふさわしい知識労働でもなければなりません。そのさい、才覚や知識に生徒個々人の経験を応用するようにすることが大切です。それぞれの場合に、生徒が自分の労働の成果、労働の有用性を解るようでなければなりません。労働は知識の光によって照らされなければなりません。

社会的労働の過程で子どもたちは集団主義の熟練を身につけます。労働にたいする社会主義的態度、友人関係や相互援助を育てる子どもたちの活動の集団主義的形態はとくに重要です。社会的利益と個人的利益とのきりはなしがたい統一を示している集団についての、また集団の心理についてのクループスカヤの思想は、共産主義訓育の理論と実践の発展に本質的影響を及ぼしました。クループスカヤの労働教育の思想や集団主義思想は、焦眉のかつ今日の内的内容をもっています。とはいえ、労働教育と職業選択の問題は新しい響きをもっています。全般的中等教育が現実のものとなった、今日、当然にも、17, 8 歳未満の少年少女たちは、学校あるいは他の教育機関で学んでいます。あらゆる職種の労働にとって高い教育水準の充足がなされています。これらすべては、労働教育への新しい進展を必要としています。

1977 年 12 月に、わが国の党中央委員会とソ連邦閣僚会議は、「普通教育学校生徒の教授・訓育と生徒の労働への準備の一層の完成にかんする法令」を採択しました。その法令の中で次のように強調されています。「国における全般的中等教育への移行が実現されている現在の諸条件のもとで、中等学校卒業生は、在学中に、国民経済で活動するための労働の熟練と科学の基礎の深い知識をわがものとし、一定の職業の習得を完全になさねばなりません。物質的生産分野における労働にたいする、また、確実な根拠のある職業選択にたいする青年の準備教育の改善のために学校の決定的変革が必要だということをソビエトの教師、生徒及びかれらの両親が深く自覚しなければなりません。」法令の中で、労働教授と訓育の完成方法と手段が述べられました。これについて、ソビエトの学校によって、すでに、一定の経験が蓄積されており、私は、それについて叙述したいと思います。

現在の課題は、すべての生徒に、ほんとうにごく近い将来に、職業活動への十分な選択能力をつけること、及び、社会的有用労働へのそれぞれの力にふさわしい参加を保障することです。児童の教育、労働への成長中の世代の準備は、いまや、わが国の国家、労働組合、コムソモール、生産集団、学校および家庭が日常的に配慮すべきものであります。この重要な問題にかんし、多くの企業が学校をよく援助しております。企業の指導者たちは、今日の若者、つまり、生徒たちが、明日は労働者である、と正しく考えております。工場や国営農場の明日の日々について考える人は、学校のことを忘れることはできません。多くの地域や、州、共和国で問題状況が注意深く分析され、そして、もっとも近い将来に、全ての生徒を包摂しうるような労働教育にとって必要なベースをつくりあげるために学校を援助する方法が考えられています。労働担当教員の養成を拡充すること、労働教授実習監督官のための教育学や心理学の問題

にかんする特別講座を組織することが考えられています。夏休み中における集団農場や工場での生徒の力相応の労働が、ますますひんぱんに、組織的休暇と結びつけられています。こうして、1978年夏には、約1,500万人の上級学年の生徒たちが、その夏休みの一部を学校労働連合で過しました。

労働連合は、男女青年にとって、思想的、道徳的、身体的訓練の学校であり、学校を終えて労働者階級ならびにコルホーズ農民の隊列に入るための、また、国民経済のもっとも主要な分野の労働へ参加する志向を育てています。

労働連合は、授業で得られた知識と能力を実際に応用することや、生きる道を明確にすることで生徒たちを助けています。そのさい、労働連合は専門家を養成することをその目的とはしていません。わが国では、学校間教育生産コンビナートがつくられ、生徒たちはそこで、経験豊かな教育者の指導の下で労働教育をうけています。ここには、職長たちの指導で現代の技術と教育設備を整えている実習室があります。現在、このような教育生産コンビナートは1,000以上あります。たとえば、ノボクズネツク市西区学校間教育生産コンビナートでは、7校の上級学年生619人が学んでいます。生徒たちは、機械組立仕上げ工、自動車運転手、装飾仕上げ工、販売員、洋裁師、理髪師のような職業にかんする労働の熟練と知識を得るために週一回ここに来ます。職業選択実習室では、街で必要とする他の職業についても身につけることができます。大企業では、生徒のために特別な教育用職場を開設しています。例を上げると、ハーリコフ・トラクター工場の教育用職場では、高学年生たちに労働熟練を与えています。レニングラードの学校では、『学校のクラスから、労働のクラスへ！』のスローガンで活動が行われています。モスクワでは、物質的生産の分野における労働へ生徒を準備するうえで決定的転換をなしとげるために、学校、職業施設、企業の相互協力がなされ、生徒たちの職業進路決定に注意を払っています。

農村学校では、生徒生産作業隊が広範に普及しており、その数は、今や、44,000に達しています。300万人の農村学校の生徒たちが、畑作や農場や、畜産農場、あるいは菜園で働いています。ロシア共和国では、生徒作業隊の畑は、542,000ヘクタールにのぼります。そこでは、毎年、数千人の生徒—若き機械専門家の学習が行われています。わが国には、9,000の学校林があり、そこには410,000人の子どもたちがやってきます。若い自然愛好家は、山林の世話をし、その保護をしてくれます。かれらは樹木や灌木の種子を集め、養樹園を豊かにします。ピオニエールも高学年生におくれをとけません。労働生活へのピオニエールの行進は、今日、全連邦的な「ピオニエール隊」を目標に動き出しています。ピオニエールたちが報告しているところによれば、1978年に、かれらによって60万トンの古紙が集められ、500万人のピオニエールが「穀物作戦」に参加し、3万人が若いコンバイン式刈取機の運転手とその助手としてわが国の畑で働き、200万トンの鉄くずをわが国のマルチン式溶鉱炉のために集めたのです。

高学年の労働教育を指導しているのは、一定の職業を身につけさせるための資格を有する教育者です。かれらは、高学年生の一人ひとりの具体的職種への興味をひきだそうとしていますが、それは、何よりもまず、物質的生産の分野で立派に働くことができるようにするためです。

これらの一致した努力の結果は、学校の卒業生たちが、労働活動に急速にとけこんでいること、生徒たちの養成された専門的知識が国民経済の要求にこたえていることに、あらわれています。

ソビエト学校は、生徒の労働教育を完全なものとしつつ、同時に、総合技術的知識の徹底、それらの現代の学説との論理的一致をめざしてねばりよく活動しています。中等教育が、精神労働の分野へのみ直結する道を開いていたなどという現象は、過去のものとなってしまいました。いまや、産業においては、あらゆる場合に、実に多くの現業において、精神的努力も肉体的努力も同じように必要としているのです。社会主義社会における労働は、新しい資質を習得させるのです。このことが、学校に、労働教育をしかるべく組織するという点で特別な責任を課しています。

ソビエト学校にとっては、総合技術主義の原則がきわめて重要です。ソビエトの学校は、まさにその最初から総合技術学校として建設されました。レーニンとクループスカヤが、まさに、この原則を主張しました。

クループスカヤは、彼女によって準備された総合技術教育にかんする報告テーゼへのレーニンの覚え書きを1929年に公表しました。その報告テーゼは、国民教育にかんする党協議会で彼女によって報告されたものでした。この覚え書きと報告は、ソビエト教育学の発展にとって巨大な思想的・理論的、かつ、実践的意義を有しています。覚え書きと報告の中で、総合技術教育は、純粋に学校の問題としてでなく、一般的政治的課題として取扱われました。なぜならば、総合技術学校は、全面的に発達した人々の養成のための条件づくりを促進するものでなければならないからです。これらの思想を発展させながら、クループスカヤは、労働教育を総合技術教育と、また、人格の全面的調和的発達の思想とに有機的に結びつけました。正当にも、彼女は、総合技術教育の理論家と名づけられております。彼女は、この問題にかんして、100以上もの専門論文を書いています。

クループスカヤは、第1回全ロシア総合技術教育大会(1930年)で、大会の組織者として演説しましたが、この大会は、学校の総合技術化へ向けての生産企業の顕著な転換に影響を与えたものでした。ここで、クループスカヤは次のように述べています。「総合技術教育は、共産主義教育の固有の部分となっています。総合技術教育については、第一インターナショナルが述べていましたし、マルクス、エンゲルス、レーニンが書きましたし、わたしたちの党の綱領の中でもこれについて述べています。教育人民委員部が設置された、まさに、その第一歩から教育人民委員部の中で問題とされました。」(第10巻、377ページ。)

彼女の見解によれば、総合技術教育これは全一的体系であり、全面的に発達した新しい時代の建設者の教育にとって必要な前提であり、国民経済にとって必要とされる有資格要員養成のための職業技術教育の土台であります。

クループスカヤは、社会主義的社会関係の体系に生徒を包みこみ、労働集団および社会と生徒を結びつける生産的労働の意義を強調しました。さらに、彼女は、論文「社会主義的学校の問題について」の中で、次のように書いています。「生産的労働は、子どもを、将来、社会の有用な一員となるように育てるだけでなく、生産的労働は、子どもを現在、社会の有用な一員であるようにするものであって、子どもによってこの事実が自覚されることは大きな教育的意義をもっています。」([11巻本]、第2巻、15ページ。)

総合技術教育の教育学の原則を究明しつつ、クループスカヤが重視したことは、現代工業の基本を理論と実践において生徒に知らせること、労働過程に、さまざまな形態に、固有な一般的なものを青年が身につけるのを助けること、もっとも簡単な道具の取扱いの能力と習熟を青年の身につけさせること、同じく、あらゆる労働を自分で容易にこなすことができるように

すること、でした。彼女は、総合技術主義が何か特別な教授科目ではないことを強調しました。総合技術主義は、それ自身、諸学科にしみわたっていなければならない、関連する教材選択に反映されなければなりません。教授学習過程における科学の基本が、生徒たちに学習対象への創造的態度や探求好きな建設的思考、技術への興味を育成するものでなければなりません。教授過程における重要な要素は学校工場です。学校工場は、生産と密接に結びついていなければなりませんし、教育学的観点から熟考された作業計画をもっていなければなりません。クループスカヤは、狭い職業教育の方向へそれることを警告しつつ、このような学校工場での「労働過程」によって生産的労働を代替することや、学校工場で誰れにとっても不必要な有用性のないものを生産することに対し、断呼として反対を表明しました。クループスカヤは、工場や、コルホーズ、ソホーズでの生産的実習を生徒に行わせることの熱心な支持者でしたが、そのさい、企業見学に大きな意義を与え、そのためにあらゆる生産環境を利用することをすすめました。総合技術教授は、職業選択への準備で生徒が狭い専門家に変質しないための一種の予防であると、彼女は考えていました。クループスカヤの意見によれば、職業教育は普通教育と組み合わせられなければなりませんし、また、それ自身、明確な総合技術的基礎を有していなければなりません。クループスカヤは、総合技術主義は、教授学習の一般原則となるべきであるということ強調しつつ、職業技術学校における生徒の総合技術的視野を拡げ、職業教育を総合技術教育と結合することが必要であるとしたレーニンの要求に留意していました。総合技術教育の本質と体系を広く理解しつつ、クループスカヤは、同時に、総合技術主義に度を越して夢中になることを警告し、総合技術主義を私たちの世界観、社会科学、マルクス主義と結合することを訴えました。

今日、総合技術教育についてのクループスカヤの思想は、生徒による科学の、まず何よりも自然にかんする科学（化学、物理学、植物学、数学）の系統的、かつ、強固な習得の保障、及び、生産のもっとも重要な部門の科学的基礎を生徒たちに知悉させること、生産見学を組織すること、学級外活動の援助をとまなう実験室での授業を行うことなどの方策によって実現されています。学校と生産との結合の強化には、とくに重要な意義を与えられています。

成長中の世代の教授と訓育の総合技術的扱い方を徹底するために、ソビエトの学校によって多くのことがなされています。学校の生徒たちは、物理や化学、植物学その他の諸科学の授業で自然の法則を学び、それらの科学的本質を知るばかりでなく、それらの国民経済への応用も知ることになります。人文諸科学（社会科、経済地理学他）の課題は、一般的認識を教えるばかりでなく、社会主義の経済法則の作用の具体的計画をも教えることです。卒業学年の生徒たちは、社会科の授業で、党とソビエト国家の経済政策（企画、経済管理、労働の役割とその分配）について、また、わが国の政治体制、その基礎にある社会主義的民主主義について、労働集団と社会的組織の意義について、最後に、社会における一人ひとりの人間の役割についての知識を得ることができます。

労働の授業は、第1学年から行われます。大部分の学校は、このために自分たちの小工場をもっています。学校における総合技術教育は、先進的な生産集団の経験を吸収し、次第に完全なものとなっています。総合技術教育は、科学・技術の進歩を考慮し、たえず、その内容を革新しています。

私たちは、統一労働学校——そこでは、今日、総合的（思想的、労働的、道徳的）教育が実施されている——の発展にかんするクループスカヤの思想を実現しつつ、つねに、学校で何

を教えるかのみならず、いかに教えるかをも知ることが重要であるという、クループスカヤの主張を想い起しています。クループスカヤは、あれこれの教科の教育的影響力は、その多くが教師の教育学的手腕にかかっていることを強調しました。教育者は公平な通告人ではありません。教育者は、子どもの意識に、子どもの感情にはたらきかけるのです。教育は、子どもを納得させ子どもをとらえ、夢中にさせることができればなりません。このさい。クループスカヤは、子どもたちが自主的活動や、創造的思考力への習熟を形成することを促すような教授方法を教育実践に応用することが必要だと考えていました。なぜなら、クループスカヤは、「技術の進歩、科学の進歩は……知識の習得にさいして自主的に活動する能力を要求している。」（[11 巻本]、第3巻、511 ページ。）と述べていました。彼女は、上に述べたすべての要求にこたえるような、また、自分の仕事を愛し、知悉し、当該分野の知識にたいする自分の愛情を子どもに伝えることができるような、熱心な教師が、わが国には、大勢いると言っていました。ソビエト政権のもとで、教員の数は、年々、たえず増加してきたことを言っておかねばなりません。現在、わが国の初等中等教育機関の教師及び訓育者の数は、450 万人となっています。ソ連邦のあらゆる種類の教育機関には、9,400 万人の人々がおります。

この教育者の軍勢は、たえず、自己の資質を高めつつ、クループスカヤの著作を広く利用しています。そして、クループスカヤは、成果に安住することのないように、実生活によって提起される教育問題にたいする回答を創造的に探求することを教育者に訴えていました。今日、ソ連邦教育科学アカデミーやその他の教育学及び心理学の専門的科学的研究機関、また、同じく、国の 200 の教育大学の関係する学科の科学者の大集団が、クループスカヤの遺訓にしたがい、ソビエト教育学の発展分野での巨大な研究活動に従事しています。

ナジェージダ・コンスタンチノヴナ・クループスカヤは、偉大なレーニンの友人であり、戦友であり、また、秀れた党及びソビエトの活動家、そして学者であったばかりでなく、自分自身と人々にたいする謙虚さときびしさの模範でもありました。彼女のふくよかな内面生活、高い文化的知性、熟考された観察力、天性の才能によって、彼女の同時代人の一人が証言しているように、彼女は、天才的に一つの路線を歩み、個性を失うことなく、もちろん、止ることもなかったのです。

クループスカヤの絶大な教育学の遺産は、わが国のみならず、国際的進歩的な人々によって、とりわけ、日本において高く評価されています。本年、1979 年 5 月 20 日に行われた第 17 回ソビエト教育学研究会北海道協議会公開セミナーが、クループスカヤ生誕 110 周年を記念して盛大に開催されたこともその一つの証しであります。

ソ連邦政府は、クループスカヤ先生を顕彰し、心から敬意を表し、成長中の世代の教授と訓育への功労にたいする「クループスカヤのメダル」と、教授と訓育の諸問題にかんするすぐれた科学的著作にたいして「クループスカヤ賞」を設けました。ロシア共和国政府は、児童と青年のための秀れた芸術作品にたいして、「ロシア共和国クループスカヤ国家賞」を設けました。20 年前に国連によって採択された児童の権利宣言は、ソビエトにおいて実現されています。ソビエト政権は、その存在した第一日目から、児童保護のためのなしうる最大限のことをしてきました。すでに、1919 年 2 月に採択された児童擁護委員会の創設にかんするレーニンの布告が、このことを確証しています。今日、ソ連邦憲法、すなわち、ソビエト国家基本法によって、成長中の世代にたいして幸福な幼年時代と、労働活動へ有資格者として教育される全面発達の権利を保障する全般的中等無償義務教育をふくむ諸施策の広汎な実現が保障されてい

ます。

クループスカヤ生誕110周年と国際児童年が同じ年にあたることから、私くしたちは、今一度、クループスカヤが、わが国ばかりでなく全世界の子どもたちや若者のためにいかに多くのことをなしたかを思い起し、感謝したいと思います。彼女の著作は、多くの国々において入念に研究されていますし、彼女の思想は、ますます広く、国際的に応用されています。ユネスコは、発展途上国における読み書きの普及の秀れた成果にたいして、ソビエト政府の管理にゆだねられている「クループスカヤ賞」を、毎年、授与しています。私が知っている日本の科学者たちは、クループスカヤの多岐にわたる活動の解明において重要な貢献をなしております。

終りにあたり、成長中の世代の訓育と陶冶にかんするクループスカヤの思想の重要な意義を今一度強調したいと思います。それは、今日、ソ連邦の科学者による訓育と陶冶の問題の研究のための基礎をなしているばかりでなく、私くしたち相互の学術交流にも貢献しております。そして、これらの交流は、日本国民とソビエト国民のあいだの友好の強化を促進することでしょう。

〔1979年8月29日 竹田正直訳〕